

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月12日
【四半期会計期間】	第16期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	大陽日酸株式会社
【英訳名】	TAIYO NIPPON SANSO CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 市原 裕史郎
【本店の所在の場所】	東京都品川区小山一丁目3番26号
【電話番号】	(03)5788-8060
【事務連絡者氏名】	管理本部 グループ会計部長 吉田 隆志
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区小山一丁目3番26号
【電話番号】	(03)5788-8060
【事務連絡者氏名】	管理本部 グループ会計部長 吉田 隆志
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第3四半期 連結累計期間	第16期 第3四半期 連結累計期間	第15期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上収益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	518,030 (188,603)	633,435 (210,554)	740,341
税引前四半期利益又は 税引前利益 (百万円)	42,200	60,915	62,083
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	27,234 (9,556)	41,358 (13,617)	41,291
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益 (百万円)	17,721	27,483	27,532
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	396,508	426,738	406,602
資産合計 (百万円)	1,759,620	1,785,701	1,771,015
基本的1株当たり四半期 (当期)利益 (第3四半期連結会計期間) (円)	62.93 (22.08)	95.57 (31.47)	95.42
希薄化後1株当たり四半期 (当期)利益 (円)	-	-	-
親会社所有者帰属持分比率 (%)	22.5	23.9	23.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	59,164	97,276	98,685
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	695,740	45,107	754,969
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	667,553	36,706	664,925
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	79,248	73,791	59,620

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上収益には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。

3. 希薄化後1株当たり四半期(当期)利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

4. 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成された要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいてあります。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）における当社グループの事業環境は、国内では、主要関連業界を中心に生産活動が弱まったことに加え、欧州も主要関連業界の生産活動は低調でした。一方、米国では製造業の生産活動は底堅く、セパレートガス（酸素、窒素、アルゴン）の出荷は前期並みに推移しました。エレクトロニクス関連においては、電子材料ガスの出荷は、国内では前期並みでしたが海外では減少しました。

このような状況の下、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上収益6,334億35百万円（前年同期比22.3%増加）、コア営業利益682億51百万円（同55.6%増加）、営業利益718億96百万円（同60.9%増加）、親会社の所有者に帰属する四半期利益413億58百万円（同51.9%増加）となりました。

なお、コア営業利益は営業利益から非経常的な要因により発生した損益（事業撤退や縮小から生じる損失等）を除いて算出しております。

セグメント業績は、次のとおりです。

なお、セグメント利益はコア営業利益で表示しております。

国内ガス事業

産業ガス関連では、主力製品であるセパレートガスの売上収益は、主要関連業界である鉄鋼・非鉄・金属加工及び化学向けを中心に前期に比べ減少しました。また、エレクトロニクス関連での電子材料ガスの売上収益は、前期並みとなりました。機器・工事では、2018年10月に買収した医療機器販売会社アイ・エム・アイ(株)の収益貢献がありました。

以上の結果、国内ガス事業の売上収益は、2,602億57百万円（前年同期比2.2%減少）、セグメント利益は、199億72百万円（同6.4%減少）となりました。

米国ガス事業

産業ガス関連では、製造業での生産は堅調であり、バルクガスを中心に売上収益は増加しました。オンサイトでは、化学メーカー向け等の新規案件の稼働が開始したことに加え、2019年2月に買収したHyCO事業の貢献もあり、増収となりました。機器・工事では、エレクトロニクス関連での売上収益は減少しました。

以上の結果、米国ガス事業の売上収益は、1,488億40百万円（前年同期比7.2%増加）、セグメント利益は、167億79百万円（同59.4%増加）となりました。

天然ガス等から水蒸気改質装置などで分離される水素（H₂）・一酸化炭素（CO）を、石油精製・石油化学産業などにパイプラインを通じて大規模供給する事業

欧州ガス事業

欧州ガス事業の売上収益は、1,253億7百万円、セグメント利益は、192億12百万円となりました。なお、2018年12月に米国Praxair, Inc.から買収した欧州事業を前第3四半期連結会計期間より当セグメントで開示しております。

アジア・オセアニアガス事業

産業ガス関連では、バルクガスの売上収益は、主に中国で大きく減少したことに加え、アジア地域全般で軟調でした。LPガスは、豪州での出荷は堅調でした。エレクトロニクス関連では、電子材料ガスの出荷は前期を下回りましたが、機器・工事が大きく増加し、売上収益は増加しました。

以上の結果、アジア・オセアニアガス事業の売上収益は、791億61百万円（前年同期比0.3%増加）、セグメント利益は、81億48百万円（同4.8%減少）となりました。

サーモス事業

サーモス事業は、国内ではケータイマグの販売は堅調でしたが、冷夏・暖冬（天候不順）の影響を受け、スポーツボトルと保温弁当箱の販売は前期を下回りました。海外では、海外販社の出荷数量が減少しました。

以上の結果、サーモス事業の売上収益は、198億69百万円（前年同期比 8.1%減少）、セグメント利益は、60億60百万円（同 15.9%減少）となりました。

（2）財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は1兆7,857億1百万円で、前連結会計年度末比で146億86百万円の増加となっております。為替の影響については、前連結会計年度末に比べ期末日レートがUSドルで1円43銭の円高、ユーロで2円2銭の円高となるなど、約203億円少く表示されております。

〔資産〕

流動資産は、現金及び現金同等物の増加や営業債権の減少等により、前連結会計年度末比で114億29百万円増加し、3,585億73百万円となっております。

非流動資産は、有形固定資産の増加等により、前連結会計年度末比で32億56百万円増加し、1兆4,271億27百万円となっております。

〔負債〕

流動負債は、社債及び借入金の減少等により、前連結会計年度末比で3,954億8百万円減少し、3,237億69百万円となっております。

非流動負債は、社債及び借入金やその他の金融負債の増加等により、前連結会計年度末比で3,879億71百万円増加し、1兆39億54百万円となっております。

〔資本〕

資本は、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上による増加や、利益剰余金の配当、在外営業活動体の換算差額の減少等により、前連結会計年度末比で221億22百万円増加し、4,579億77百万円となっております。

なお、親会社所有者帰属持分比率は23.9%で前連結会計年度末に比べ0.9ポイント高くなっております。

（3）キャッシュ・フローの分析

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

税引前四半期利益、減価償却費及び償却費、法人所得税の支払額又は還付額等により、営業活動によるキャッシュ・フローは972億76百万円の収入となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

有形固定資産の取得による支出、有形固定資産の売却による収入等により、投資活動によるキャッシュ・フローは451億7百万円の支出となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

短期借入金の純増減額、長期借入れによる収入、社債の発行による収入等により、財務活動によるキャッシュ・フローは367億6百万円の支出となりました。

これらの結果に、為替換算差額等を加えた当第3四半期連結累計期間の現金及び現金同等物の四半期末残高は、737億91百万円となりました。

（4）事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループの対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配するものの在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

会社の支配に関する基本方針

- 1 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の経営理念、企業価値を生み出す源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係などを十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を長期的に確保、向上させる者でなければならないことを基本原則といたします。

また、上場会社である当社の株式は、株式市場を通じて多数の株主、投資家の皆さまによる自由な取引が認められているものであり、仮に当社株式の大規模な買付行為や買付提案がなされた場合であっても、当該当社株式の大規模買付が当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではありません。

これら当社株式の大規模な買付等に応ずるか否かの最終判断は、株主の皆さまのご意思に基づいて行われるべきものと考えております。

- 2 基本方針の実現に資する取組み

当社では、多くの投資家の皆さまに長期的に継続して当社に投資していただくため、また、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるために、次の取組みを実施しております。

これらの取組みは、前記当社における会社の支配に関する基本方針の実現に資するものと考えております。

- 2 - 1 企業価値向上への取組み

当社は、2018年3月期を初年度とする4ヶ年の中期経営計画「Ortus Stage 2」にもとづき、構造改革、イノベーション、グローバル化、M & Aの4つを戦略の柱として企業価値の向上に取り組んでおります。

- 2 - 2 コーポレート・ガバナンス（企業統治）の強化による企業価値向上への取組み

当社は、当社のコーポレート・ガバナンスの指針となるコーポレート・ガバナンス原則を取締役会で制定しております。当社は、当社グループの持続的な成長及び長期的な企業価値の向上を図る観点から、株主をはじめ顧客・従業員・地域社会等の立場を踏まえた上で、意思決定の透明性・公正性を確保するとともに、保有する経営資源を有効に活用し、迅速・果敢な意思決定により経営の活力を増大させることがコーポレート・ガバナンスの要諦であると考え、次の基本的な考え方に沿って、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでおります。

- (1) 株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
- (2) 株主を含むステークホルダーの利益を考慮し、それらステークホルダーと適切に協働する。
- (3) 会社情報を適時適切に開示し、透明性を確保する。
- (4) 監督と執行を分離することにより、取締役会による業務執行の監督機能を実効化する。
- (5) 当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、株主との間で建設的な対話を行う。

また、内部統制システムについては、当社は、2002年10月に「大陽日酸グループ行動規範」を制定し、当社グループ全体の遵法精神と企業倫理の向上を目指すとともに、グループチーフコンプライアンスオフィサー（GCCO）と日本及び海外7地域に地域コンプライアンスオフィサー（RCO）を任命しています。日本では日本CCOがコンプライアンス委員会の委員長として、また世界全体についてはGCCOがRCOを委員とするグローバルコンプライアンスコミティの委員長として、当社グループのコンプライアンスの確保に努めております。さらに当社グループのリスクを横断的に管理するリスクアセスメント委員会と、保安、安全、品質、環境及び知的財産に関する技術リスクを重点的に管理する技術リスクマネジメント委員会及び会社情報の適切な管理を目的とする情報管理委員会を設けて、当社事業に伴うリスクの管理を行っております。

当社は、前記の取組み等を通じて株主の皆さまをはじめ取引先や当社社員など当社のステークホルダーとの信頼関係をより強固なものにしながら、中長期的視野に立って企業価値の安定的な向上を目指してまいります。

- 2 - 3 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定を支配されることを防止するための取組み

当社は、大規模買付行為を行おうとする者に対しては、その是非を株主の皆さまが適切に判断するために必要かつ十分な情報を求め、併せて当社取締役会の意見等を開示し、株主の皆さまのご検討のための時間の確保に努める等、会社法及び金融商品取引法等関係法令の許容する範囲内で適切な措置を講じます。

- 2 - 4 具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

当社取締役会は、上記 - 2 - 1 及び 2 に記載した各取組みが、 - 1 に記載した基本方針に従い、当社をはじめとする当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益に沿うものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、25億93百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,600,000,000
計	1,600,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (2020年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	433,092,837	433,092,837	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	433,092,837	433,092,837	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	-	433,092	-	37,344	-	56,433

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 180,500	-	単元株式数は100株であります。
	(相互保有株式) 普通株式 783,400	-	
完全議決権株式(その他)	普通株式 431,904,000	4,319,040	同上
単元未満株式	普通株式 224,937	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	433,092,837	-	-
総株主の議決権	-	4,319,040	-

(注) 1. 単元未満株式には、当社所有の自己株式37株、ニッキフッコー(株)所有の相互保有株式59株、福西産業(株)所有の相互保有株式73株及び(株)証券保管振替機構名義の株式38株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式が1,400株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数14個が含まれております。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 大陽日酸(株)	東京都品川区小山1-3-26	180,500	-	180,500	0.04
(相互保有株式) 幸栄運輸(株)	宮城県多賀城市宮内2-3-2	137,000	122,600	259,600	0.06
ニッキフッコー(株)	広島県呉市広白岳3-1-52	80,200	130,400	210,600	0.05
宮崎酸素(株)	宮城県宮崎市祇園2-140-1	10,000	111,300	121,300	0.03
北関東日酸(株)	栃木県小山市大字横倉新田503	-	76,200	76,200	0.02
埼玉日酸(株)	埼玉県川口市青木3-5-1	-	47,100	47,100	0.01
岡安産業(株)	東京都江東区亀戸6-57-23	29,000	12,200	41,200	0.01
仙台日酸(株)	宮城県多賀城市宮内2-3-2	-	26,600	26,600	0.01
関東アセチレン工業(株)	群馬県渋川市中村1110	-	700	700	0.00
福西産業(株)	大阪府大阪市此花区梅香1-26-9	100	-	100	0.00
計	-	436,800	527,100	963,900	0.22

(注) 「他人名義所有株式数」の欄に記載しております株式の名義は全て「大陽日酸取引先持株会」(東京都品川区小山1-3-26)であり、同会名義の株式のうち、各社の持分残高の単元部分を記載しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」という。）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【要約四半期連結財務諸表】

(1)【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2019年12月31日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		59,620	73,791
営業債権		197,952	184,545
棚卸資産		66,288	73,549
その他の金融資産	11	10,051	8,535
その他の流動資産		13,231	18,150
流動資産合計		347,143	358,573
非流動資産			
有形固定資産		639,332	664,753
のれん		437,722	434,474
無形資産		253,897	242,272
持分法で会計処理されている投資		34,434	30,353
その他の金融資産	11	51,314	48,255
退職給付に係る資産		1,773	1,695
その他の非流動資産		720	728
繰延税金資産		4,676	4,592
非流動資産合計		1,423,871	1,427,127
資産合計		1,771,015	1,785,701

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2019年12月31日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務		105,966	93,174
社債及び借入金	11	533,925	150,607
未払法人所得税		10,704	6,080
その他の金融負債	11	41,818	49,321
引当金		352	371
その他の流動負債		26,410	24,214
流動負債合計		719,177	323,769
非流動負債			
社債及び借入金	10, 11	466,206	828,740
その他の金融負債	11	4,054	30,448
退職給付に係る負債		12,377	12,597
引当金		7,603	3,093
その他の非流動負債		20,336	20,067
繰延税金負債		105,403	109,007
非流動負債合計		615,983	1,003,954
負債合計		1,335,160	1,327,723
資本			
資本金		37,344	37,344
資本剰余金		53,116	57,450
自己株式		261	267
利益剰余金		339,393	369,599
その他の資本の構成要素		22,991	37,389
親会社の所有者に帰属する持分合計		406,602	426,738
非支配持分		29,251	31,239
資本合計		435,854	457,977
負債及び資本合計		1,771,015	1,785,701

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

(第 3 四半期連結累計期間)

(単位 : 百万円)

	注記	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2018年 4 月 1 日 至 2018年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2019年 4 月 1 日 至 2019年12月31日)
売上収益	4 , 7	518,030	633,435
売上原価		333,850	388,228
売上総利益		184,179	245,207
販売費及び一般管理費		143,309	181,013
その他の営業収益		2,737	9,685
その他の営業費用		1,445	4,212
持分法による投資利益		2,531	2,228
営業利益		44,693	71,896
金融収益		1,823	1,021
金融費用		4,317	12,002
税引前四半期利益		42,200	60,915
法人所得税		13,182	18,368
四半期利益		29,018	42,547
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		27,234	41,358
非支配持分		1,784	1,189
1 株当たり四半期利益			
基本的 1 株当たり四半期利益 (円)	8	62.93	95.57

(第3四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
売上収益		188,603	210,554
売上原価		121,471	128,353
売上総利益		67,131	82,201
販売費及び一般管理費		52,712	60,571
その他の営業収益		450	5,222
その他の営業費用		255	2,470
持分法による投資利益		1,111	765
営業利益		15,725	25,147
金融収益		979	362
金融費用		1,578	5,425
税引前四半期利益		15,126	20,083
法人所得税		4,830	6,261
四半期利益		10,296	13,822
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		9,556	13,617
非支配持分		739	204
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	8	22.08	31.47

【要約四半期連結包括利益計算書】
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期利益	29,018	42,547
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産	3,043	453
確定給付制度の再測定	1	10
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	192	9
純損益に振り替えられることのない項目合計	3,238	452
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	3,106	12,600
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変 動の有効部分	2,656	40
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	686	1,928
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	6,449	14,488
税引後その他の包括利益合計	9,687	14,035
四半期包括利益	19,330	28,511
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	17,721	27,483
非支配持分	1,608	1,027

(第3四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
四半期利益	10,296	13,822
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産	5,386	1,795
確定給付制度の再測定	0	1
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	14	1
純損益に振り替えられることのない項目合計	5,370	1,797
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	13,538	22,080
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変 動の有効部分	7,675	98
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	528	364
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	21,742	21,813
税引後その他の包括利益合計	27,113	23,611
四半期包括利益	16,816	37,434
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	17,419	36,969
非支配持分	602	464

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

(単位:百万円)

	注記	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金
2018年4月1日残高		37,344	53,072	256	305,400
四半期利益		-	-	-	27,234
その他の包括利益		-	-	-	-
四半期包括利益		-	-	-	27,234
自己株式の取得		-	-	4	-
自己株式の処分		-	0	0	-
配当	9	-	-	-	10,389
支配継続子会社に対する 持分変動		-	93	-	-
企業結合又は事業分離		-	-	-	-
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	-	2,469
その他の資本の構成要素 から非金融資産等への振替		-	-	-	-
連結範囲の変動		-	-	-	-
その他の増減		-	-	-	-
所有者との取引額等合計		-	93	4	7,920
2018年12月31日残高		37,344	53,166	260	324,714

その他の資本の構成要素

	注記	在外営業活動体の換算差額	キャップシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動の有効部分	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	確定給付制度の再測定	合計	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2018年4月1日残高		25,699	38	16,632	-	9,105	386,457	25,614	412,072
四半期利益		-	-	-	-	-	27,234	1,784	29,018
その他の包括利益		3,634	2,656	3,008	212	9,512	9,512	175	9,687
四半期包括利益		3,634	2,656	3,008	212	9,512	17,721	1,608	19,330
自己株式の取得		-	-	-	-	-	4	-	4
自己株式の処分		-	-	-	-	-	0	-	0
配当	9	-	-	-	-	-	10,389	814	11,204
支配継続子会社に対する 持分変動		-	-	-	-	-	93	24	118
企業結合又は事業分離		-	-	-	-	-	-	1,451	1,451
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	2,681	212	2,469	-	-	-
その他の資本の構成要素 から非金融資産等への振替		-	2,629	-	-	2,629	2,629	-	2,629
連結範囲の変動		-	-	-	-	-	-	-	-
その他の増減		-	-	-	-	-	-	89	89
所有者との取引額等合計		-	2,629	2,681	212	160	7,671	572	7,098
2018年12月31日残高		29,334	65	10,942	-	18,457	396,508	27,796	424,304

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

(単位:百万円)

	注記	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金
2019年4月1日残高		37,344	53,116	261	339,393
四半期利益		-	-	-	41,358
その他の包括利益		-	-	-	-
四半期包括利益		-	-	-	41,358
自己株式の取得		-	-	6	-
自己株式の処分		-	0	0	-
配当	9	-	-	-	11,688
支配継続子会社に対する 持分変動		-	0	-	-
企業結合又は事業分離		-	4,333	-	-
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	-	523
その他の資本の構成要素 から非金融資産等への振替		-	-	-	-
連結範囲の変動		-	-	-	12
その他の増減		-	-	-	-
所有者との取引額等合計		-	4,334	6	11,152
2019年12月31日残高		37,344	57,450	267	369,599

その他の資本の構成要素

	注記	在外営業活動体の換算差額	キャップシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動の有効部分	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	確定給付制度の再測定	合計	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2019年4月1日残高		33,440	39	10,488	-	22,991	406,602	29,251	435,854
四半期利益		-	-	-	-	-	41,358	1,189	42,547
その他の包括利益		14,358	40	453	10	13,874	13,874	161	14,035
四半期包括利益		14,358	40	453	10	13,874	27,483	1,027	28,511
自己株式の取得		-	-	-	-	-	6	-	6
自己株式の処分		-	-	-	-	-	0	-	0
配当	9	-	-	-	-	-	11,688	674	12,363
支配継続子会社に対する 持分変動		-	-	-	-	-	0	92	91
企業結合又は事業分離		-	-	-	-	-	4,333	1,961	6,294
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	534	10	523	-	-	-
その他の資本の構成要素 から非金融資産等への振替		-	-	-	-	-	-	-	-
連結範囲の変動		-	-	-	-	-	12	-	12
その他の増減		-	-	-	-	-	-	233	233
所有者との取引額等合計		-	-	534	10	523	7,347	959	6,388
2019年12月31日残高		47,798	1	10,407	-	37,389	426,738	31,239	457,977

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	42,200	60,915
減価償却費及び償却費	36,881	63,073
減損損失	-	1,931
受取利息及び受取配当金	1,325	1,021
支払利息	4,317	10,713
持分法による投資損益(は益)	2,531	2,228
有形固定資産及び無形資産除売却損益(は益)	736	6,529
営業債権の増減額(は増加)	6,126	10,849
棚卸資産の増減額(は増加)	7,831	7,166
営業債務の増減額(は減少)	4,057	11,953
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	327	311
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	218	683
その他	5,321	1,349
小計	75,726	120,305
利息の受取額	198	168
配当金の受取額	2,911	4,850
利息の支払額	4,273	9,183
法人所得税の支払額又は還付額(は支払)	15,397	18,863
営業活動によるキャッシュ・フロー	59,164	97,276
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	53,527	54,389
有形固定資産の売却による収入	1,817	8,135
投資の取得による支出	1,029	548
投資の売却及び償還による収入	5,484	1,172
子会社の取得による支出	640,088	-
子会社の売却による収入	-	1,586
事業譲受による支出	4,748	-
その他	3,648	1,064
投資活動によるキャッシュ・フロー	695,740	45,107

(単位：百万円)

注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	643,791	411,569
コマーシャル・ペーパーの純増減額（は減少）	30,000	6,000
長期借入れによる収入	35,193	386,617
長期借入金の返済による支出	27,858	48,733
社債の発行による収入	-	49,736
リース負債の返済による支出	1,634	6,349
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	169	43
配当金の支払額	10,389	11,688
非支配持分への配当金の支払額	814	674
その他	565	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	667,553	36,706
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響	496	1,332
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	31,473	14,130
現金及び現金同等物の期首残高	47,809	59,620
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（は減少）	34	41
現金及び現金同等物の四半期末残高	79,248	73,791

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

大陽日酸株式会社（以下、「当社」という。）は日本国内に所在する企業であり、東京証券取引所市場第一部に上場しております。当社の登記している本社の住所は、ウェブサイト（<https://www.tn-sanso.co.jp>）で開示しております。当社及び子会社（以下、「当社グループ」という。）の要約四半期連結財務諸表は12月31日を期末日とし、当社グループ並びにその関連会社及び共同支配の取決めに対する持分により構成されております。当社グループは、鉄鋼、化学、エレクトロニクス産業向けなどに国内外でガス事業を展開するほか、ステンレス製魔法瓶など家庭用品の製造・販売などの事業も行っております。詳細については、注記「4. 事業セグメント」に記載しております。

当社の親会社は、株式会社三菱ケミカルホールディングスであります。

2. 作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。当社は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たしていることから、同93条の規定を適用しております。

要約四半期連結財務諸表は、連結会計年度の連結財務諸表で要求されるすべての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

(2) 財務諸表の承認

当社グループの本要約四半期連結財務諸表は、2020年2月12日に、当社代表取締役社長 市原裕史郎によって承認されております。

(3) 測定の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定する金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しております。

(4) 表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(5) 判断、見積り及び仮定の利用

当社グループのIFRSに準拠した要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行う必要があります。実際の業績はこれらの見積りとは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は、継続して見直されます。会計上の見積りの変更による影響は、その見積りが変更された会計期間及び影響を受ける将来の会計期間において認識されます。

当社グループの要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、原則として前連結会計年度の連結財務諸表と同様であります。

3. 重要な会計方針

当社グループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除き、前連結会計年度において適用した会計方針と同一であります。

なお、各四半期における法人所得税は、見積年次実効税率を基に算定しております。

当社グループが、第1四半期連結会計期間より適用している主な基準書及び解釈指針は、以下のとおりであります。

基準書及び解釈指針	新設・改訂の概要
IFRS第16号 リース	<p>リースの取り扱いに関する会計処理及び開示方法についての改訂を定めたものであります。</p> <p>主に、単一モデルとして、リース期間が12ヶ月を超える全ての借手のリースについて、原則としてその資産の使用権と支払いに伴う負債を財務諸表に反映することを求めています。</p>

契約が特定された資産の使用を支配する権利を一定期間にわたり対価と交換に移転する場合に、リース取引を認識し、リース取引における使用権資産及びリース負債をリースの開始日に認識しております。契約がリースであるか否か、又はリースが含まれているか否かについては、法的にはリースの形態をとらないものであっても、契約の実質に基づき判断しております。

リース負債は、リース開始日におけるリース料総額の未決済分の割引現在価値として測定を行っております。使用権資産については、リース負債の当初測定額に当初直接コスト、前払リース料等を調整し、リース契約に基づき要求される原状回復義務等のコストを加えた額で当初の測定を行っております。

リース料は、リース負債残高に対して一定の利子率となるように、金融費用とリース負債残高の返済部分とに配分しており、当該金融費用は純損益として認識しております。

使用権資産は、原資産の所有権がリース期間の終了時まで借手に移転する場合又は、使用権資産の取得原価が購入オプションを行使することを反映している場合には耐用年数で、それ以外の場合は耐用年数とリース期間のいずれか短い期間で、定期的に減価償却を行っております。

なお、リース期間が12ヶ月以内に終了するリース及び原資産が少額であるリースについて、当該リースに関連したリース料を、リース期間にわたり定期的に費用として認識しております。

IFRS第16号を適用することにより、本基準の適用開始日において、当社グループのリース関連の資産の帳簿価額が341億円増加し、同時にリース負債が346億円増加しております。

IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しておりますが、本基準の適用開始日における累積的影響額はありません。

また、IFRS第16号の適用にあたっては、契約がリースであるか否か、又は契約にリースが含まれているか否かを適用開始日現在で見直さず、経過措置として認められている、過去のIAS第17号「リース」及びIFRIC第4号「契約にリースが含まれているか否かの判断」に基づく判定を引き継ぐ方法を採用しております。

当社グループは、IAS第17号のもとで、リース契約について、リース資産の所有に伴うリスク及び経済価値が、実質的に全て当社グループに移転する場合には、ファイナンス・リースに分類し、それ以外の場合にはオペレーティング・リースとして分類しておりました。IFRS第16号では、それらの分類をすることなく、リースについて契約の実質に基づき使用権資産及びリース負債を認識しております。

IAS第17号のもとでファイナンス・リースに分類していたリースについて、適用開始日現在の使用権資産及びリース負債の帳簿価額は、それぞれ、その直前の日におけるIAS第17号に基づくリース資産及びリース債務の帳簿価額で算定しております。

IAS第17号のもとでオペレーティング・リースに分類していたリースについて、適用開始日現在のリース負債は、残存リース料総額を適用開始日現在の当社グループの借手の追加借入利子率を用いて割り引いた現在価値で測定しております。使用権資産は、リース負債の測定額に、前払リース料と未払リース料を調整した金額で測定しております。

当社グループは、IAS第17号のもとでオペレーティング・リースに分類していたリースにIFRS第16号を適用する際に、経過措置として認められている、以下の方法を採用しております。

- ・減損レビューの代替として、適用開始日の直前におけるIAS第37号「引当金、偶発負債及び偶発資産」に基づく不利な契約に係る引当金の金額で使用権資産を調整する。
- ・残存リース期間が12ヶ月以内のリースに、使用権資産とリース負債を認識しない免除規定を適用する。
- ・適用開始日の使用権資産の測定から当初直接コストを除外する。
- ・延長又は解約オプションが含まれている契約のリース期間を算定する際に、事後的判断を使用する。

当社グループは、リース負債を測定する際に、適用開始日現在の借手の追加借入利率を用いてリース料を割り引いております。適用した追加借入利率の加重平均は2.5%であります。

前連結会計年度の末日現在における、解約不能オペレーティング・リースに係る将来の最低支払リース料総額と、適用開始日現在におけるリース負債との差額の内訳は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

2019年3月31日現在の解約不能オペレーティング・リースに係る将来の最低支払リース料総額	23,029
2019年3月31日現在の解約不能オペレーティング・リースに係る将来の最低支払リース料総額 (2019年4月1日現在の追加借入利率で割引後)	20,875
2019年3月31日現在のファイナンス・リース債務	5,269
リース負債を認識しない短期リース又は少額資産のリース	1,804
行使することが合理的に確実な延長オプション及び行使しないことが合理的に確実な解約オプション等	15,585
2019年4月1日現在のリース負債	39,927

4. 事業セグメント

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。なお、報告にあたって事業セグメントの集約は行っていません。

当社グループは、鉄鋼、化学、エレクトロニクス産業向けなどに国内外でガス事業を行っており、主要製品に関しては、日本、米国、欧州、アジア・オセアニアの各地域において、それぞれ生産・販売体制を構築しております。また、ステンレス製魔法瓶など家庭用品の製造・販売などの事業も行っております。したがって、当社は、「国内ガス事業」「米国ガス事業」「欧州ガス事業」「アジア・オセアニアガス事業」「サーモス事業」の5つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主要な製品は、以下のとおりであります。

報告セグメント	主要な製品・サービス
国内ガス事業	酸素、窒素、アルゴン、炭酸ガス、ヘリウム、水素、アセチレン、ガス関連機器、特殊ガス（電子材料ガス、純ガス等）、電子関連機器・工事、半導体製造装置、溶断機器、溶接材料、機械装置、LPガス・関連機器、医療用ガス（酸素、亜酸化窒素等）、医療機器、安定同位体
米国ガス事業	
欧州ガス事業	
アジア・オセアニアガス事業	
サーモス事業	家庭用品

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用している方法と同一であります。なお、セグメント間の内部売上収益又は振替高は、主に市場実勢価格に基づいております。

(2) 報告セグメントごとの売上収益及び損益の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント						調整額 (注1)	連結
	国内ガス 事業	米国ガス 事業	欧州ガス 事業	アジア・ オセアニア ガス事業	サーモス 事業	合計		
売上収益								
外部顧客への売上収益	265,989	138,856	12,687	78,887	21,609	518,030	-	518,030
セグメント間の内部 売上収益又は振替高	6,498	10,090	-	3,004	31	19,625	19,625	-
計	272,488	148,946	12,687	81,892	21,641	537,655	19,625	518,030
セグメント利益(注2)	21,331	10,526	560	8,559	7,205	48,183	4,312	43,871

(注) 1. セグメント利益の調整額 4,312百万円には、セグメント間取引消去 345百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,203百万円及び欧州事業の取得関連費用 2,762百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに配分していない基礎研究費用等です。

2. セグメント利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益（事業撤退や縮小から生じる損失等）を除いて算出したコア営業利益で表示しております。

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	連結
	国内ガス 事業	米国ガス 事業	欧州ガス 事業	アジア・ オセアニア ガス事業	サーモス 事業	合計		
売上収益								
外部顧客への売上収益	260,257	148,840	125,307	79,161	19,869	633,435	-	633,435
セグメント間の内部 売上収益又は振替高	7,447	11,970	82	2,319	20	21,840	21,840	-
計	267,704	160,811	125,390	81,480	19,889	655,276	21,840	633,435
セグメント利益(注2)	19,972	16,779	19,212	8,148	6,060	70,173	1,922	68,251

(注)1. セグメント利益の調整額 1,922百万円には、セグメント間取引消去 465百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,457百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに配分していない基礎研究費用等です。

2. セグメント利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(事業撤退や縮小から生じる損失等)を除いて算出したコア営業利益で表示しております。

セグメント利益から、税引前四半期利益への調整は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
セグメント利益	43,871	68,251
固定資産売却益	948	6,490
減損損失	-	1,927
その他	125	917
営業利益	44,693	71,896
金融収益	1,823	1,021
金融費用	4,317	12,002
税引前四半期利益	42,200	60,915

5. 企業結合

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

米国Praxair, Inc.の欧州事業の取得(子会社化)

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 Praxair Espana S.L.U.、他36社

事業の内容 米国Praxair, Inc.の欧州事業のうち、ドイツ・スペイン・ポルトガル・イタリア・ノルウェー・デンマーク・スウェーデン・オランダ・ベルギーの産業ガス事業、英国・アイルランド・オランダ・フランスにおける炭酸ガス事業、及びヘリウムに関連する事業

取得日

2018年12月3日

企業結合を行った主な理由

当社は、業界再編が進む中でグローバル競争力を高め、確固たる地位を確立するために、長期経営ビジョンとして「売上収益1兆円、営業利益率10%、ROCE10%以上、海外売上収益比率50%以上」の実現を掲げています。本買収は当ビジョンの実現に向けて大きく前進する手段となり、戦略的な意義を併せ持つ絶好の投資機会と捉えております。

欧州の産業ガス市場は北米に次いで大きく、かつ競争環境も安定しております。本買収により、未参入であった当該地域で一定シェアの事業を獲得することで、グローバル化を大きく進めることとなります。また、収益性の高い事業を一定の規模・ネットワーク(製造拠点等)とともに取得できることに加え、現在のトップマネジメント層を含む有為な人材や事業プラットフォームも併せて獲得できます。そうした事業基盤において、当社が有する環境規制対応などの製品を展開するとともに、グローバル企業向けのマーケティング機能拡張などグループの横串機能を強化していく方針であります。

取得した議決権付資本持分の割合

主として100.0%

被取得企業の支配の獲得方法

当社連結子会社であるNippon Gases Euro-Holding S.L.U.等が、現金を対価として、被取得企業の株式を取得したことによります。

(2) 支払対価の公正価値

(単位:百万円)

	取得日 (2018年12月3日)
現金	635,847
支払対価合計	635,847

(3) 取得資産、引受負債、非支配持分及びのれん

	(単位：百万円)
	取得日 (2018年12月3日)
流動資産	
現金及び現金同等物	4,354
営業債権(注2)	32,664
棚卸資産	8,368
その他	3,681
非流動資産	
有形固定資産(注1)	190,561
無形資産(注1)	208,301
持分法で会計処理されている投資	5,998
その他	4,196
取得資産	458,123
流動負債	
営業債務	23,882
その他の金融負債	13,593
その他	12,254
非流動負債	
退職給付に係る負債	6,942
繰延税金負債	72,444
その他	1,297
引受負債	130,412
取得資産及び引受負債(純額)	327,711
非支配持分(注3)	2,265
のれん(注4、5)	310,401

前第3四半期連結累計期間においては暫定的な会計処理を行っていましたが、前第4四半期連結会計期間に企業結合当初の会計処理が完了しております。

(注) 1. 有形固定資産及び無形資産の内訳

有形固定資産は、主に機械装置及び運搬具136,460百万円であります。無形資産は、主に顧客に係る無形資産203,900百万円であります。

2. 取得した債権の公正価値、契約上の未収金額及び回収不能見込額

取得した債権の公正価値と契約上の未収金額は、おおむね同額であります。契約上の未収金額のうち、回収不能と見込まれるものはありません。

3. 非支配持分

非支配持分は、被取得企業の識別可能な純資産の公正価値に対する非支配株主の持分割合で測定しております。

4. のれん

のれんの主な内容は、個別に認識要件を満たさない、取得から生じることが期待される既存事業とのシナジー効果と超過収益力であります。また、のれんは、税務上損金算入不能なものです。

5. ベーシス・アジャストメント

被取得企業への投資に対する為替リスクをヘッジするために、為替予約を実施しました。当該予定取引はキャッシュ・フロー・ヘッジとしてヘッジ会計を適用しており、取得日のヘッジ手段の公正価値 3,791百万円を、ベーシス・アジャストメントとして当該企業結合に伴い発生したのれんの当初認識額に調整した結果、のれんの当初認識額が同額増加しております。

(4) 取得関連費用

取得関連費用は、2,762百万円であり、要約四半期連結損益計算書上、「販売費及び一般管理費」に含めております。

(5) 当社グループの業績に与える影響

当社グループの前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結損益計算書には、取得日以降に被取得企業から生じた売上収益及び四半期利益が、それぞれ12,687百万円及び286百万円含まれております。

企業結合が、前第3四半期連結累計期間の期首である2018年4月1日に行われたと仮定した場合の当社グループの売上収益及び四半期利益（プロフォーマ情報）は、それぞれ636,402百万円及び38,868百万円であります。なお、当該プロフォーマ情報は監査証明を受けておりません。

当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）
 重要な企業結合は発生しておりません。

米国でのHyCO事業及び関連する事業資産の譲受

2019年2月に、当社の100%連結子会社であるMatheson Tri-Gas, Inc.がLinde Gas North America LLCが米国で行っているHyCO事業の一部及び関連する事業資産を事業譲受により取得しました。当該企業結合に関し、前連結会計年度において取得資産、引受負債及びのれんの公正価値の測定が完了しなかったため暫定的な会計処理を行っていましたが、第2四半期連結会計期間に測定が完了しております。支払対価の公正価値、並びに確定後の取得日における取得資産、引受負債及びのれんは以下のとおりであります。

(1) 支払対価の公正価値

	(単位：百万円)
	取得日 (2019年2月27日)
現金	46,133
支払対価合計	46,133

(2) 取得資産、引受負債及びのれん

	(単位：百万円)
	取得日 (2019年2月27日)
流動資産	215
非流動資産	
有形固定資産（注1）	31,387
無形資産（注1）	7,852
取得資産	39,454
非流動負債	498
引受負債	498
取得資産及び引受負債（純額）	38,956
のれん（注2、3）	7,177

（注）1．有形固定資産及び無形資産の内訳

有形固定資産は、主に機械装置及び運搬具31,361百万円であります。無形資産は、顧客に係る無形資産7,852百万円であります。

2．のれん

のれんの主な内容は、個別に認識要件を満たさない、取得から生じることが期待される既存事業とのシナジー効果と超過収益力であります。また、のれんは、全額税務上一定期間にわたり損金計上されません。

3．ベシス・アジャストメント

被取得企業への投資に対する為替リスクをヘッジするために、為替予約を実施しました。当該予定取引はキャッシュ・フロー・ヘッジとしてヘッジ会計を適用しており、取得日のヘッジ手段の公正価値 452百万円を、ベシス・アジャストメントとして当該企業結合に伴い発生したのれんの当初認識額に調整した結果、のれんの当初認識額が同額増加しております。

6. 減損損失

当社グループは、概ね独立したキャッシュ・インフローを生み出す最小の資金生成単位でグルーピングを行っております。なお、遊休資産及び処分予定資産については、個別資産別に減損損失の認識の判定を行っておりません。

当第3四半期連結累計期間において、減損損失が1,931百万円発生しております。減損損失は、要約四半期連結損益計算書の「その他の営業費用」に含めております。

減損損失を認識した主要な資産は、以下のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

用途	場所	種類	報告セグメント	減損損失 (百万円)
炭酸ガス生産設備	岡山県倉敷市、 福岡県北九州市	機械装置及び 運搬具 他	国内ガス事業	1,614

・炭酸ガス生産設備

1,614百万円（うち、機械装置及び運搬具1,287百万円、その他327百万円）

岡山県倉敷市及び福岡県北九州市の炭酸ガス生産設備は、事業環境の変化に伴い処分予定となったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。なお、回収可能価額は使用価値により測定し、その価値を零として備忘価額まで減額しております。

7. 売上収益

当社グループは、鉄鋼、化学、エレクトロニクス産業向けなどに国内外でガス事業を行っており、主要製品に関しては、日本、米国、欧州、アジア・オセアニアの各地域において、それぞれ生産・販売体制を構築しております。また、ステンレス製魔法瓶など家庭用品の製造・販売などの事業も行っております。

これらの事業における製品販売については、製品の引渡時点において、顧客が当該製品に対する支配を獲得することから、履行義務が充足されると判断し、当該製品の引渡時点で収益を認識しております。

また、収益は、顧客との契約において約束された対価から、値引き、リベート及び返品などを控除した金額で測定しております。

なお、製品の販売契約における対価は、製品に対する支配が顧客に移転した時点から概ね1年以内に回収しており、重要な金利要素は含んでおりません。

売上収益の分解と報告セグメントの売上収益との関連

前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

（単位：百万円）

	国内ガス事業	米国ガス事業	欧州ガス事業	アジア・オセアニアガス事業	サーモス事業	合計
売上収益						
ガス	183,837	108,175	10,127	59,654	-	361,794
機器・装置 他	82,152	30,680	2,559	19,232	-	134,625
家庭用品	-	-	-	-	21,609	21,609
合計	265,989	138,856	12,687	78,887	21,609	518,030

当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

（単位：百万円）

	国内ガス事業	米国ガス事業	欧州ガス事業	アジア・オセアニアガス事業	サーモス事業	合計
売上収益						
ガス	175,398	119,300	114,271	57,284	-	466,254
機器・装置 他	84,858	29,539	11,036	21,877	-	147,312
家庭用品	-	-	-	-	19,869	19,869
合計	260,257	148,840	125,307	79,161	19,869	633,435

8.1 株当たり四半期利益

基本的1株当たり四半期利益及びその算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	27,234	41,358
期中平均普通株式数(千株)	432,759	432,755
基本的1株当たり四半期利益(円)	62.93	95.57

(注)なお、希薄化後1株当たり四半期利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

	前第3四半期連結会計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	9,556	13,617
期中平均普通株式数(千株)	432,758	432,754
基本的1株当たり四半期利益(円)	22.08	31.47

(注)なお、希薄化後1株当たり四半期利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

9. 配当

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

(1) 配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月20日 定時株主総会	普通株式	5,194	12	2018年3月31日	2018年6月21日
2018年10月31日 取締役会	普通株式	5,194	12	2018年9月30日	2018年12月3日

- (2) 基準日が前第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が前第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

(1) 配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月20日 定時株主総会	普通株式	5,627	13	2019年3月31日	2019年6月21日
2019年10月31日 取締役会	普通株式	6,060	14	2019年9月30日	2019年12月2日

- (2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

10. 社債

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

発行した社債は次のとおりであります。

(単位:百万円)

				発行総額
第15回無担保社債	期間	2019年 - 2024年	利率 0.130%	20,000
第16回無担保社債	期間	2019年 - 2026年	利率 0.190%	10,000
第17回無担保社債	期間	2019年 - 2029年	利率 0.300%	20,000

11. 金融商品

金融商品の公正価値

金融商品の公正価値ヒエラルキーは、レベル1からレベル3までを以下のように分類しております。

レベル1：同一の資産又は負債の活発な市場における無調整の公表価格により測定された公正価値

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3：重要な観察可能な市場データに基づかないインプットを含む評価技法から算出された公正価値

金融商品のレベル間の振替は、期末日ごとに判断しております。前連結会計年度及び当第3四半期連結累計期間において、レベル間の重要な振替が行われた金融商品はありません。

(1) 経常的に公正価値で測定する金融商品

公正価値で測定している金融商品は、以下のとおりであります。

前連結会計年度（2019年3月31日）

（単位：百万円）

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産				
株式及び出資金	29,050	-	9,625	38,676
デリバティブ資産	-	65	-	65
合計	29,050	65	9,625	38,741
負債				
デリバティブ負債	-	67	-	67
合計	-	67	-	67

当第3四半期連結会計期間(2019年12月31日)

(単位:百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産				
株式及び出資金	29,010	-	9,031	38,042
デリバティブ資産	-	45	-	45
合計	29,010	45	9,031	38,087
負債				
デリバティブ負債	-	42	-	42
合計	-	42	-	42

株式及び出資金

レベル1に分類される市場性のある株式の公正価値は、同一の資産又は負債の活発な市場における無調整の公表価格によっております。

レベル3に分類される活発な市場における公表価格が入手できない非上場株式の公正価値は、合理的に入手可能なインプットにより、類似企業比較法又はその他適切な評価技法を用いて算定しております。なお、必要に応じて一定の非流動性ディスカウント等を加味しております。

デリバティブ資産及びデリバティブ負債

レベル2に分類されるデリバティブ資産及びデリバティブ負債の公正価値は、取引先金融機関から提示された価格、又は為替レート及び金利等の観察可能なインプットに基づき算定しております。

レベル3に分類される金融商品は、適切な権限者に承認された公正価値測定に係る評価方法を含む評価方針及び手続に従い、評価者が対象となる各金融商品の評価方法を決定し、公正価値を算定しております。その結果は適切な権限者がレビュー、承認しております。

レベル3に分類された金融商品の増減は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
期首残高	10,403	9,625
その他の包括利益(注)	1,524	281
購入	671	469
売却	3,128	17
連結範囲の変動	51	50
その他の増減	55	714
四半期末残高	9,474	9,031

(注) 要約四半期連結包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産」に含まれておりません。

(2) 償却原価で測定する金融商品

償却原価で測定している金融商品の帳簿価額と公正価値は、以下のとおりであります。

前連結会計年度（2019年3月31日）

（単位：百万円）

	帳簿価額	公正価値			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
負債					
長期借入金	379,556	-	392,708	-	392,708
社債	147,065	-	148,830	-	148,830
合計	526,622	-	541,538	-	541,538

当第3四半期連結会計期間（2019年12月31日）

（単位：百万円）

	帳簿価額	公正価値			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
負債					
長期借入金	721,582	-	734,961	-	734,961
社債	196,943	-	199,751	-	199,751
合計	918,526	-	934,713	-	934,713

償却原価で測定する金融商品については、長期借入金及び社債を除いて、公正価値は帳簿価額と合理的に近似しております。

長期借入金

長期借入金の公正価値については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値に基づき算定しております。

社債

社債の公正価値については、市場価格に基づき算定しております。

2【その他】

2019年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (1) 中間配当による配当金の総額.....6,060百万円
- (2) 1株当たりの金額.....14円00銭
- (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2019年12月2日

（注） 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月12日

大陽日酸株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中村 和臣 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 寒河江 祐一郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川脇 哲也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大陽日酸株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条の規定により国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、大陽日酸株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。